



小林 紀夫  
(自民党)

**担い手への農地の集積・集約化 今後の展望は**

**問** 農政の中心にある米作政策は、戦後一貫して高米価、減反政策が続けられてきたが、農業後継者や農地保全の問題、PPPといった背景から、担い手への農地集積・集約化へと政策の転換が図られている。

農地中間管理機構の活用により、今後、農地の集積・集約化が進むと思われるが、市ではどのように進めていくのか。

**答** 市の農業の基幹である米作りは、生産コスト縮減に資する生産性の高い農地整備とその効率的な利用を図ることが重要と考えており、土地改良事業や担い手農地集積事

業交付金制度の整備を行い、担い手への農地集積率5割以上を達成した。さらなる生産コスト縮減のためには、圃場の大区画化や農地の面的集積に力を入れていく必要がある、26年度に農地中間管理事業が創設され、農地の利用条件の改善策や面的集積の促進策の充実を図るための環境が整ったところである。今後とも、土地改良事業の推進とともに、農地中間管理事業の有効活用などにより、担い手が農地を受けやすい環境整備に努めていく。



**その他の質問項目**

- ①市長の政治姿勢(第6次市総合計画、地方創生と広域地方計画ほか)
- ②医療政策(市の担う医療政策、二次救急医療体制ほか)
- ③中小企業・小規模企業政策(条例制定と組織拡充ほか)
- ④都市観光⑤美しいまちづくり(豊郷地区の自然、花を活用したまちづくり)



塚田 典功  
(自民クラブ)

**交通未来都市つつのみや実現に向けた着実な取り組みを**

**問** 市では、交通未来都市つつのみやを目指しているが、これらの実現にはLRTの整備が不可欠であり、LRTを核としたまちづくりへの取り組みが重要である。

28年8月に、交通未来都市つつのみやの将来像と現時点における利活用方策が示されたが、今後着実に推進するためには、市民や事業者と連携し、取り組むことが大変重要である。

実現に向けた市長の思いと、市民と事業者一体となった取り組みに対する考え方について聞く。

**答** 人口減少などを見据えたまちづくりに取り組

む中、LRTを軸とした総合的な交通ネットワークの整備を進めることで、2050年頃の予想図として、誰もが安全で、快適・自由に移動でき、市民が「しあわせ」「たのしい」「ゆたか」と実感できるまちを思い描いている。

こうしたまちの実現には、市民、事業者、行政などが一体となって取り組むことが必要であることから、まずは将来像の共有化を図るため、8月に、LRT整備による変化や効果をわかりやすく提示したところである。今後は、市民などから意見やアイデアをいただきながら、全国に誇ることができる交通未来都市を築き上げていく。

**その他の質問項目**

- ①人口減少・少子化対策(産後ケア、企業に対する新たな誘致策の導入など)
- ②経済政策(中心市街地における観光振興、インバウンド対策など)
- ③障がい者に係る保健福祉行政障がい者施設の防犯対策など
- ④新たな食育推進計画⑤ふるさと納税⑥動物行政



小平 美智雄  
(市民連合)

**鶴田駅周辺エリア 今後の活用は**

**問** 姿川地区は、居住人口が多く、今後も人口の増加が見込まれるが、地区内の鶴田駅は、市内の鉄道駅で唯一、立地適正化計画の都市機能誘導区域が配置されていない。

今後のまちづくりを展望し、鶴田駅周辺エリアを計画にどう位置付け、今後の活用を図るのか。また、鶴田駅や、地域拠点と位置付けられた西川田駅周辺は、狭い生活道路が多く、交通インフラや都市計画道路の整備が欠かせないと考えるが、どのように取り組むのか。

**答** 鶴田駅周辺は、他の駅周辺と比較して、駅へのアクセスを確保する基盤が整っていないため、

都市機能誘導区域の候補エリアに位置付けた。現在整備を進めている都市計画道路の完成により、地区のポテンシャルの高まりが期待されるため、基盤を整えることが可能となった段階で立地適正化計画を改定し、都市機能誘導区域を定め、駅周辺の拠点形成を進めていく。

駅周辺の整備については、鶴田駅へのアクセス道路である都市計画道路の早期完成に向け重点的に取り組むとともに、西川田駅周辺は、総合スポーツゾーン全体構想に基づき周辺道路の整備を具と連携を図りながら進めている。また、生活道路についても優先的な整備を検討する。



▲鶴田駅周辺の様子

**その他の質問項目**

- ①LRT②障がい者施策③性暴力被害対策④観光振興⑤教育の情報化

※1 農地中間管理機構(事業)・・・農地の中間的な受け皿となり農地貸借を進める機関(事業)

※2は5ページ欄外に記載